

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科 4年制)

2026年度入学生カリキュラム(1年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち 実務教員による授業	授業単位数	うち シラバス添付	授業単位数	備考
講義	ITリテラシー	2	○	2			
講義	理学療法基礎科学	2	○	2	☆	2	
講義	心理学	4	○	4			
演習	保健体育(コンディショニング)	4	○	4			
演習	コミュニケーション論	2	○	2			
講義	解剖学 I	8	○	8			
講義	生理学	8	○	8			
講義	運動学	8	○	8			
講義	運動機能論 I	2	○	2	☆	2	
講義	運動機能論 II	2	○	2			
講義	人間発達学	2	○	2			
講義	病理学	2	○	2			
講義	救急救命(BLS)	2	○	2			
講義	リハビリテーション概論	1	○	1	☆	1	
講義	理学療法概論	1	○	1			
講義	基礎理学療法セミナー	2					
講義	理学療法評価概論	2	○	2			
演習	動作観察法演習	2	○	2			
総授業時数		56		54		5	
卒業に必要な授業時数		193					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						内堀 昭宜			
	理学療法基礎科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床において動作分析の臨床と研究に従事してきた理学療法士である。本講義では、理学療法に必要な科学・物理学・生物学の内容の基礎知識を確認し、理学療法学の基礎を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ・理学療法にかかわる科学の基礎的な内容を理解する
- ・国家試験の問題演習を通して、必要となる知識と考え方を身につける

〔使用教材、参考文献等〕

- 適宜、プリント配布

〔準備学習・時間外学習〕

<準備> 日常にある数字に興味をもち、数字の意味を考える
 <時間外学習> 講義内容と小テストの振り返りを行い、知識の再確認をする

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	【オリエンテーション】 授業の目的の確認 【イントロダクション】 なぜ、基礎科学が必要か	理学療法における科学が必要な場面を知る
2	【数学を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト①～ ★小テスト★	医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる
3	【数学を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト②～ ★小テスト★	医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる
4	【運動強度】 ～心機能と肺機能～ ～実習: 運動負荷量を計算してみよう～	理学療法評価に用いる指標を計算できる ★次週、レポート提出★
5	【歩行能力】 ～歩行にかかわる数値～	歩行を評価する指標を知る
6	【歩行能力】 ～実習: 歩行にかかわる数値を算出してみよう～	歩行を評価する指標を使い計算できる ★次週、レポート提出★
7	【神経】 ～神経伝導速度～	神経伝導の速度を求める計算ができる
8	【科学・研究】 ～有効なEBPTを選択するために～ ～基本統計量～	文献抄読を通して、科学が理学療法の価値に影響することを知る ★次週、レポート提出★
9	【力と運動】① ～“力”とは、運動の法則～	身体を使うときに生じる“力”について説明できる
10	【力と運動】② ～力のつり合い、ベクトル～ ★小テスト★	身体を使うときに生じる“力”について説明できる
11	【仕事とエネルギー】① ～仕事と仕事率～	仕事から考える効率的な動きを説明できる
12	【仕事とエネルギー】② ～力学的エネルギー～ ★小テスト★	身体に生じるエネルギーを説明できる
13	【波・光・音】 ～物理療法機器と効果～	物理的エネルギーがもたらす効果を説明できる
14	★期末試験★(60分) 第9回～第13回 講義内容	試験を通して自分の知識の深さを理解する
15	☆返却と解説☆ 講義のまとめ、振り返り	講義を振り返り、理学療法における科学の意義を再考する

〔評価について〕

- 小テスト(全4回予定)
- レポート課題(全3回予定)
- 期末試験

〔特記事項〕

実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合があります
 配布資料に重要項目は書き込むこと

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						松崎 昌也			
運動機能論 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

担当教員は、長年医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、筋骨格系理学療法を専門とする専任教員により、骨格系(骨・関節・靭帯)、筋系、神経系に関する基本的な解剖学的・運動学的・生理学的知識を学ぶことを目的とする。

[到達目標]

・骨格系(骨・関節・靭帯)、筋系、神経系の構造と機能を理解し、説明することができる。

[使用教材、参考文献等]

- ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学
- ・基礎運動学 第6版
- ・配布資料(Teamsにアップロード)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1 (4/15)	オリエンテーション	授業を受ける上での注意点や成績評価について理解する。
2 (4/22)	骨格系総論	骨格系を構成する骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能について、説明できる。
3 (4/29)	骨格系(上肢Ⅰ) 小テスト1	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
4 (5/13)	骨格系(上肢Ⅱ) 小テスト2	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
5 (5/20)	骨格系(上肢Ⅲ) 小テスト3	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
6 (5/27)	骨格系(上肢Ⅳ) 小テスト4	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
7 (6/3)	骨格系(下肢Ⅰ) 小テスト5	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
8 (6/10)	骨格系(下肢Ⅱ) 小テスト6	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
9 (6/17)	骨格系(下肢Ⅲ) 小テスト7	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
10 (6/24)	筋系(上肢Ⅰ) 小テスト8	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
11 (7/1)	筋系(上肢Ⅱ) 小テスト9	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
12 (7/8)	筋系(上肢Ⅲ) 小テスト10	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
13 (7/15)	総復習 小テスト11	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
14 (7/22 3限)	期末テスト対策	前期内容を総復習し、知識を整理することができる。
15 (7/22 4限)	期末テスト 解説	テストにより授業内容の習熟度を把握する。

[評価について]

小テスト各5点×11回(55点)と、期末テスト(45点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。

[特記事項]

・テストはTeamsで実施するため、PC/タブレットなどのデバイスを持参すること。(スマートフォンによる受験は不可)

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科 I 部 4年制)

2025年度入学生カリキュラム(2年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	障がい者スポーツ論	2	○	2			
講義	解剖学Ⅱ	2	○	2			
講義	神経内科学	4	○	4	☆	4	
講義	内科学	4	○	4			
講義	整形外科学	4	○	4			
講義	栄養学	1	○	1			
講義	薬理学	1	○	1			
講義	病態運動学	2	○	2			
講義	関節の運動学	2	○	2			
講義	理学療法検査・測定法	4	○	4			
実技	理学療法検査・測定法実習Ⅰ	2	○	2			
講義	動作分析法	2	○	2			
講義	運動療法学	4	○	4			
実技	運動療法学実習Ⅰ	2	○	2			
講義	物理療法学	2	○	2			
実技	物理療法学実習	1	○	1			
演習	義肢装具学演習	2	○	2			
講義	日常生活動作学	2	○	2			
実技	日常生活活動学実習	1	○	1			
講義	地域リハビリテーション論	1	○	1			
講義	地域理学療法学	1	○	1			
講義	生活環境論	2	○	2			
講義	実習教育Ⅰ	2	○	2			
総授業時数		50		50		4	
卒業に必要な授業時数		193					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	2	開講区分	前期	担当教員				
授業科目名	神経内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	渡辺 寛				
		時間数(単位)	30(2)	授業回数	15					
〔授業の学習内容と心構え〕										
<p>担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。</p>										
〔到達目標〕										
<p>理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。</p>										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院					専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習				本科目の意義と概論を理解できる。					
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)				中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。					
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)				抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。					
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)				抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。					
5	神経症候を学ぶ 錐体路				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。					
6	神経症候を学ぶ 錐体外路・小脳症状				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。					
7	神経症候を学ぶ 感覚路1				感覚障害の分布と特徴を理解できる。					
8	神経症候を学ぶ 感覚路2				感覚障害の分布と特徴を理解できる。					
9	高次脳機能障害(失語・失行)				高次運動障害を理解できる。					
10	高次脳機能障害(記憶・認知)				高次運動障害を理解できる。					
11	高次脳機能障害(構音・嚥下)				高次運動障害を理解できる。					
12	神経学的診察				診察の方法が理解できる					
13	神経学的検査				検査方法について理解できる					
14	前期まとめ				神経内科学総論について理解できる。					
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕					
筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	神経内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
神経内科学 医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習	本科目の意義と概論を理解できる。
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)	中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)	抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)	抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。
5	神経学的診断法と評価	神経が鵜的診断と画像診断や各種検査法を理解できる。
6	神経症候を学ぶ	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
7	運動失調及び感覚障害を学ぶ	運動失調の評価から感覚障害の特徴を理解できる。
8	錐体外路兆候・不随意運動	錐体外路兆候を把握し錐体外路の障害を理解できる。
9	運動失調	高次脳機能障害における各症状について理解できる。
10	感覚障害の特徴	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
11	高次脳機能障害(失語症)	言語機能障害の特徴と、診断を理解できる。
12	高次脳機能障害(失認)	失認の概念と分類及びリハビリテーションを理解できる。
13	高次脳機能障害(失行)	高次運動障害を理解できる。
14	高次脳機能障害(記憶障害)	記憶と記憶障害を理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行い、評価は学則規定に準ずる。
小テスト30点
期末試験70点

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科 I 部 4年制)

2024年度入学生カリキュラム(3年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	精神医学	2					
講義	老年学	2	○	2			
講義	画像診断学	2	○	2	☆	2	
講義	予防とリハビリテーション	1	○	1			
講義	スポーツリハビリテーション論	1	○	1			
講義	多職種連携の理解	1	○	1			
講義	障がい者支援と理学療法	1	○	1			
実技	理学療法検査・測定法実習Ⅱ	4	○	4			
演習	動作分析法演習	2	○	2	☆	2	
実技	運動療法学実習Ⅱ	4	○	4			
実技	疾患別理学療法学実習Ⅰ	1	○	1			
実技	疾患別理学療法学実習Ⅱ	4	○	4			
実習	臨床評価実習	5	○	5			
講義	実習教育Ⅱ	4	○	4			
講義	総合演習Ⅰ	14	○	14			
総授業時数		48		46		4	
卒業に必要な授業時数		193					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						渡辺 寛			
画像診断学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
リハビリテーション病院の医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、治療機器について学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。									
〔到達目標〕									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患に即した画像の評価について診られるようになる ・ 画像診断で医師からどのような指示がでて理解できるようになる 									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時配布資料 					普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	リハビリテーションに必要な評価機器について1				それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる				
2	リハビリテーションに必要な評価機器について2				それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる				
3	リハビリテーションに必要な評価機器について3				それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる				
4	画像診断総論1				画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる				
5	画像診断総論2				画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる				
6	画像診断各論・頭部外傷1				画像診断による頭部外傷を診られるようになる				
7	画像診断各論・頭部外傷2				画像診断による頭部外傷を診られるようになる				
8	画像診断各論・頸部				画像診断による頸部を診られるようになる				
9	画像診断各論・くも膜下出血				画像診断によるくも膜下出血を診られるようになる				
10	画像診断各論・脳出血				画像診断による脳出血を診られるようになる				
11	画像診断各論・脳梗塞				画像診断による脳梗塞を診られるようになる				
12	画像診断各論・脳腫瘍				画像診断による脳腫瘍を診られるようになる				
13	画像診断各論・胸部				画像診断による腰部を診られるようになる				
14	画像診断各論・腹部腰部				画像診断による腹部腰部を診られるようになる				
15	期末テスト								
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。 筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						内堀 昭宣			
	動作分析法演習	必修・選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床において動作分析の臨床と研究に従事してきた理学療法士である。本講義は、理学療法における検査・測定技術の一つである「動作分析」について動作に影響を及ぼす原因を考え、実際の動作分析を通して、動作の特徴を捉え個々の運動要素に分解していく思考過程を身に付ける授業である。

〔到達目標〕

- ・動作にかかわる要因を理解し、異常動作が出現する原因を考察することができる
- ・各疾患の病態との関連性を考え、動作分析することができる

〔使用教材、参考文献等〕

- 「動作分析 臨床活用講座」(MEDICAL VIEW)
- 適宜、プリント配布

〔準備学習・時間外学習〕

<準備>日頃から動作の特徴を捉える癖をつける
 <時間外学習>講義内容と確認試験の振り返りを行い、知識の再確認をする

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	【イントロダクション】 ～臨床における動作分析、動作に関与する機能障害～	臨床における動作分析の重要性と影響を及ぼす機能障害について理解できる
2	【イントロダクション】 ～動作分析に活用するバイオメカニクス～	バイオメカニクスの基本原理(=力学)の基礎を理解できる
3	【寝返り動作】～正常動作の理解～	寝返り動作の正常パターンを理解できる
4	【寝返り動作】～異常動作の推論①～	寝返り動作に影響を与える要因を推論できる
5	【寝返り動作】～異常動作の推論②～	寝返り動作に影響を与える要因を推論できる
6	◆確認試験◆ 【起き上がり動作】～正常動作の理解～	起き上がり動作の正常パターンを理解できる
7	◇返却と解説◇ 【起き上がり動作】～異常動作の推論①～	起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる
8	【起き上がり動作】～異常動作の推論②～	起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる
9	◆確認試験◆ 【起立・着座動作】～正常動作の理解～	起立・着座動作の正常パターンを理解できる
10	◇返却と解説◇ 【起立・着座動作】～異常動作の推論①～	起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる
11	【起立・着座動作】～異常動作の推論②～	起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる
12	【歩行動作】～正常動作の理解～	歩行動作の正常パターンを理解できる
13	【歩行動作】～異常動作の推論①～	歩行動作に影響を与える要因を推論できる
14	◆◆期末試験◆◆(60分)	試験を通して自分の知識の深さを理解する
15	◇返却と解説◇ 講義のまとめ、振り返り	講義を振り返り、理学療法における動作分析の過程を再考する

〔評価について〕

- 確認試験
- 期末試験

〔特記事項〕

実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある
 配布資料に重要項目は書き込むこと

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科 I 部 4年制)

2023年度入学生カリキュラム(4年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	理学療法管理学	2	○	2	☆	2	
実習	臨床総合実習	16	○	16			
実習	地域リハビリテーション実習	1	○	1			
講義	総合演習Ⅱ	20	○	20			
総授業時数		39		39		2	
卒業に必要な授業時数		193					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
	理学療法管理学								

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

病院のリハビリテーション科の管理者として、臨床現場や病院経営に携わる理学療法士が、目標達成に向けて、材料や人的資源を合理的・経済的・効率的に活用して、どのように仕事の成果をあげているのかを伝える。学生には保険制度とその報酬の仕組みを理解し、コスト感覚を持つことの重要性についても学ぶことで、自身の理学療法士としての管理が出来るようになってほしい。今後の多様な働き方に触れる機会としてほしい。

[到達目標]

理学療法士としての自分自身の管理・患者の管理・収益の管理が出来るようになる。
臨床現場に出た際の経営的な観点からの具体的なイメージを持つことができる。

[使用教材、参考文献等]

理学療法管理学(南江堂)
安全管理学・救急医療学(医歯薬出版株式会社)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・第1章:管理運営 ~管理するとは・管理されるとは~	自分自身の管理や患者の管理、経営、物品の管理について理解することができる。
2	・第2章:良質な医療の提供 ~目標の設定と目標達成までの過程~	BSC・SWOT分析・PDCAサイクルを理解し、活用することができる。
3	・第3章:記録方法とデータ管理 ~理学療法評価が病院経営にどう影響するのかと診療記録の重要性について~	FIMやBIの記録が病院経営にどのように影響するのかを理解し、SOAPIに基づく診療記録が書けるようになる。
4	・第4章:社会保障と保険制度 ~各保険制度と地域包括ケアシステムについて~	リハビリに対する報酬を理解し、請求料金の算出が出来るようにする。また、自身の報酬を算出することができる。
5	・第5章:身分法と職能団体、職域の拡大について ~日本理学療法士連盟と政治活動について~	人体の区分と方向の用語が分かり運動方向の理解ができる。
6	第6章:職域拡大について~予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルス~	実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルスについて理解することができる。
7	第6章:職域拡大について2~予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルス~	実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルスを体験することができる。
8	第6章:職域拡大について3~予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルス~	実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウイメンズヘルスを実践することができる。
9	第7章:理学療法士の未来像について ~リハビリ業界のこれから~	世界の先端技術を用いたリハビリテーションに触れ、学生が主体的に自身の未来像について語る事ができる
10	第8章:医療安全について~医療事故や有害事象から再発予防の取り組みまで~	医療事故の成り立ちを理解し、再発予防策を講じることができる
11	第9章:感染予防策 ~標準予防策について~	正しい手洗い手指消毒の方法を理解し、実践することができる。
12	第10章:転倒予防策 ~理学療法士の立ち位置~	国家試験のイラスト問題を通して、転倒に配慮した理学療法を理解することができる。
13	第11章:急性期・周術期における循環・代謝動態の管理について~バイタルサインの理解と実践~	循環動態の管理を実践し、記録することができる。また、その記録から、状態の評価をすることができる。
14	第12章:第1~11章のまとめ	第1~11章において、更に理解を深めることができる。また実技内容においては、実践することができる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は中間テスト(60点)と期末テスト(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。